

香川県教育委員会 6月定例会会議録

1. 開催日時 令和4年6月7日(火)
開 会 午前9時30分
閉 会 午前10時50分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	工 代 祐 司
委 員	小 坂 真 智 子
委 員	平 野 美 紀
委 員	藤 澤 茜
委 員	木 下 敬 三
委 員	蓮 井 明 博

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長(兼)新県立体育館整備推進総室長	近 藤 誓 吾
教育次長兼政策調整監	海 津 洋
教育次長	金 子 達 雄
総務課長	藪 木 泰 伸
義務教育課長	三 好 健 浩
高校教育課長	吉 田 智
保健体育課長	宮 滝 寛 己
生涯学習・文化財課長	荻 原 絢 嗣
政策主幹(兼)総務課副課長	佐々木 隆 司
総務課長補佐	本 田 実 治 博
総務課長補佐	市 原 登 紀 子
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	渡 邊 謙
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	橋 本 和 之
保健体育課長補佐(兼)主任体育主事	荒 井 憲 司
全国高校総体推進室長補佐(兼)主任体育主事	橋 本 博 之
生涯学習・文化財課長補佐	氏 家 紀 子
健康福利課長補佐	新 名 智 子
高校教育課主任指導主事	川 東 芳 文
高校教育課主任指導主事	筒 井 京
生涯学習・文化財課主任社会教育主事	田 中 三 千 洋
高校教育課主任	三 谷 進
健康福利課主任	川 邊 百 華

高校教育課指導主事
総務課主任主事

水野伸吾
田中一成

傍聴人 1名

5. 会議録の承認

5月16日に開催した定例会の会議録署名委員の平野委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第1号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に、また、議案第3号及び第4号は、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあること」及び「県の機関が行う事務に関する情報であって、公にすることにより人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれがあるもの」にそれぞれ該当するため、非公開としたい旨を発議。

各委員に諮り、非公開とすることに決した。

7. 議案

○議案第1号 令和4年6月香川県議会定例会に提案予定の教育委員会関係議案に対する意見について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第2号 令和5年度香川県公立高等学校入学者選抜要綱について

高校教育課長から、令和5年度香川県公立高等学校入学者選抜要綱について諮る旨、説明。

【質疑】

<木下委員>自己推薦選抜の募集割合の拡充（弾力化）について、普通科であれば従来20%以内であったところを30%以内に拡充するとあるが、従来の20%以内の定員が一杯埋まったことはあるのか。

<高校教育課長>自己推薦選抜については、基本的にはすべて定員一杯埋まってい

る。

＜木下委員＞定員を増やす理由は何か。

＜高校教育課長＞一番は高校の魅力化により、公立高校を選んでもらうことが挙げられる。近年、中学生から高校生になった時の学ぶ意欲の低下が問題となっている。自己推薦選抜では、学びたいことや自分の得意な面、長所ややりたいこと、意欲を積極的に評価する。これにより、意欲を持った中学生がこれまで以上に入学してくるようになる。また、学校は、魅力化に向けて示しているスクールポリシーに合った生徒が入学してくることによって、学校の魅力化の方向性を示していくことができる。自己推薦選抜と一般選抜という異なる選抜を行うことにより、異なるタイプの生徒達が共に学びあう場を作ることができると考えている。

＜木下委員＞自己推薦選抜の実施により、学生が多様化することは理解できる。一般選抜で入学した生徒と自己推薦選抜で入学した生徒の学力差は、これまで問題として顕在化したことはないのか。

＜高校教育課長＞学校によっては、自己推薦選抜で入学した生徒の方が意欲が高く、高校に入ってから頑張り、最初は若干差があるようでも解消するとか、リーダー的な役割を果たすということが見受けられる。

＜蓮井委員＞学区の弾力的な運用について、従来の2学区制に他学区枠を追加するという理解で良いのか。

＜高校教育課長＞入学定員の内数で他学区枠を追加し、エリアを広げるということである。

＜蓮井委員＞その場合、県内のエリアに限定するということか。一般選抜のように県外からの募集については、現時点では想定していないということか。

＜高校教育課長＞自己推薦選抜においても、全国募集を実施する。全国募集の定員の上限を、各校で自己推薦選抜と一般選抜に振り分けることとなる。

＜蓮井委員＞広く募集をかけた方が、より豊富な人材が集められる可能性が高くなる。

＜小坂委員＞受検生の得意分野や長所等を積極的にアピールできるよう「自己PR書」の見直しを行い、それらの内容に即した面接を行うことで生徒の思考力や表現力をみるとされているが、これは面接の際、何問か質問する中の1問を自己PR書に記載された内容の質問とするということか。

＜高校教育課長＞当然、共通の質問もあり、それは学校に一任することとなっている。共通の質問と自己PR書に記載された事項に関する質問のどちらにウェイトを置くかについては、最も望ましいのは、自己PR書に記載された内容についてじっくり聞くということである。自己PR書に長所ややる気をしっかり書いていただき、中学生に対する面接であるため、基本はそれに沿った質問になるかと思うが、従来であれば十分に聞けなかったが、受検生からすれば伝えたいと思うような事を聞くことができる面接となればよいと考えている。

＜小坂委員＞そのほうがよいと考える。もっと聞きたいと思っても、これ以上は中

学生に対しては難しいと思うようなこともあったため、聞きたいと思ったことがあったときに聞けるような面接になればよい。

＜藤澤委員＞中学生が自己推薦選抜を受検する学校を選ぶにあたって、先生たちから自分の点数等に応じてアドバイス等をいただいて決定していくと思うが、どのような進路相談になるかによって子どもたちのやる気が変わってくるのではないか。例えば、この学校に行きたいが、学力的に厳しいから自己推薦選抜も諦めようかなどといったところは、中学校ではどのような指導を行っているのか。

＜高校教育課長＞それについては、中学校の先生方に自己PR書の趣旨を十分に説明すること、実際にはこれまでも高校の校長等が自校に来そうな中学校の先生方のところに個別に訪問して話をし、高校が望む生徒像等を伝えている。その中で高校を選択してもらえたらよいと考える。また、現在志願者数の低下が問題とされている専門学科の高校については、学校の特性など、学校に行ってみてもらわないと分からないことが沢山あるが、現在、コロナ禍でなかなか学校に見学に来ることもできない。高校は、学校紹介についての映像を作成する等の工夫をしながら説明会に臨むなど、中学生に対して高校について理解を促し、入学を希望してもらえるよう頑張っている。また、成績については学校に入学してからのこともあるが、積極的にやる気のある子や特色のある子がチャレンジしてくれたらよいと考えている。

＜教育長＞自己推薦選抜は、今までは50分程度の総合問題と面接が基本的なパターンと考えてよいのか。

＜高校教育課長＞総合問題の代わりに作文を実施している学校がある。面接は必ずすべての学校で実施している。

＜教育長＞今回、自己PR書の見直しと、それに即した面接を行うことが自己推薦選抜の見直しのメインとなっているが、今まで実施していた50分程度の総合問題はどうなるのか。

＜高校教育課長＞希望する学校は実施することとなる。作文を実施する学校もある。作文のタイトルは各学校で設定するため、そこで学校の特色を出そうとする学校もあろうと考える。

＜教育長＞試験問題はどうなるのか、独自で各学校が作るのか。

＜高校教育課長＞今年度は独自で試験問題を作成する学校はない。総合問題については共通の問題で実施している。

＜教育長＞学科については試験を行わず、面接と作文だけを実施している学校もあるのか。

＜高校教育課長＞ある。その場合、調査書によって中学校での学びや学力的なことを判断している。

＜教育長＞令和5年度入試で総合問題を実施する学校もあるのか。

＜高校教育課長＞ある。

＜教育長＞面接を重視するとのことであるが、今までは一人につき何分くらい面接

を実施していたのか。また、今後はどのくらい行う予定なのか。

<高校教育課長> これまでは5分程度であった。今年度からは学校によってどの程度実施するのか考えていくこととなる。じっくり行いたい場合は時間が長くなると思う。ただ、時間を長くするためには、面接会場と試験官の確保が必要であるため、その兼ね合いで決定していくと考えている。

<教育長> 「自己PR書の内容に即した面接を行う」と打ち上げているのであれば、何も変わらないわけにはいかないだろう。また、面接については、それを担う面接官のスキルが非常に重要となる場所である。面接官のスキルアップも含めて、この自己推薦選抜が実施されるよう、頑張っていたきたい。次に、通信制志願者の結果通知についての改正がなされるようであるが、今年度、通信制の志願者は何名程度いたのか。

<高校教育課担当> 正確な数字は持ち合わせていないが、高松高校と丸亀高校合わせて40名程度であったと認識している。

<教育長> 定員は何名なのか。

<金子教育次長> 定員は、学年ごとの定員を定めているわけではなく、通信制全体で各校500名となっている。現在、高松高校、丸亀高校合わせて在籍者数300名台となっている。

<教育長> 通信制の志願者数は、近年どのような動きをしているのか。私立の広域通信制高校にかなり生徒が流れ、県立高校の志願者が減少しているという説明があったが、県立にも通信制高校があるので、どのように考えているのか。

<金子教育次長> 県立の通信制は、ここ10年でみれば在籍者は減少傾向にある。以前は400名台の人数が在籍していた。

<教育長> 公立の通信制から私立の広域通信制に生徒が流れているとも考えられるのか。

<高校教育課長> 私立の広域通信制の生徒が増えているのは、中学校を卒業した段階ですぐに進学を希望する生徒が増えているためと考える。

<藤澤委員> スクーリングの日数がどのくらいあるのか。私立の広域通信制高校は行きたい時にいつでも行けると聞く。通信制ではあるが、まったく家から出ないというよりは、家から出る状況を作るために、私立の広域通信制高校を選ぶ方がいるとも聞く。公立はどうなっているのか。

<高校教育課長> 私立の広域通信制は、毎日通学するパターンや週に2～3日通学するパターンなど様々なパターンがある。公立は基本的には日曜日を正式なスクーリングの日としている。ただ、実際には平日にもスクーリングに関係なく学校に来て先生と話をしたり、自習をしたりしている。設定の仕方、表し方が異なるだけで、公立も説明が必要なのかもしれない。

<藤澤委員> 私立はそのようなことも含めてPRが上手いのかかもしれない。

<高校教育課長> それは間違いないと感じている。

<教育長> それは大いなる課題であり、今後通信制をどうしていくかも県にとって

は課題であると考えている。

＜高校教育課長＞年間を通して継続的にスクーリングを設定することで途切れない指導を行っていくことが公立の通信制の良さであり、頑張っているところである
と考える。

＜平野委員＞少子化の時代に県立高校を選んでもらうためにはいろいろな改革が必要であることは理解できるし、必要に迫られているのだと感じている。新しいものを取り入れることは目新しくて良いのかもしれないが、従来の在り方も少し見直す必要があるのかと感じる。例えば、入試の日程であるが、これはそう簡単に変えることはできないのだと思うが、それが受検生にとってやりやすい日程になっているのか、合格発表までに時間があるが、全国募集のことも考えれば入試から発表までの期間について利便性等を考えて短期間にできないかなど、従来のやり方で良いのかを考える必要があるのではないかと感じた。また、先ほど話題になっていた面接時間について、5分では短いのではないかと思う。大学の面接は20分程度となっている。5分であれば、生徒たちは面接指導を受けて受検しているため、差が出ないのではないか。面接時間を長くした場合、今度は塾などの指導が入ってきて同じような回答が出るなどイタチごっこにもなりかねないので、面接官の力量が生きてくるところであるため、そのあたりも検討していく必要があると考える。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第3号 香川県社会教育委員の委嘱について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第4号 教職員の懲戒処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 令和4年度スーパーアスリート育成事業について

保健体育課長から、令和4年度スーパーアスリート育成事業について説明。

【質疑・意見交換】 無し

○その他事項2 令和4年度四国インターハイについて

保健体育課長から、令和4年度全国高等学校総合体育大会に係る応援者及び観客の入場や今後のスケジュールについて説明。

【質疑・意見交換】

＜平野委員＞先日報道されていた英国王室関連行事では、皆、マスクをしていなくて驚いた。まだまだコロナウイルス感染症に関しては厳しい状況が続いているが、四国インターハイは盛り上がって欲しい。